

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新道央郵便処理施設(仮称)新築工事	階数	地上5F
建設地	北海道札幌市東区東麻生町146-1の内ほか(街区番号15 符号1)	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	600人
気候区分	1地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年4月 予定	評価の実施日	2015年8月7日
敷地面積	51,045 m ²	作成者	山下設計 高橋良弘
建築面積	23,874 m ²	確認日	2015年8月7日
延床面積	67,511 m ²	確認者	山下設計 鷹蒼寿昭



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

3 設計上の配慮事項

総合	A 省エネルギー
<p>直方体に、エレベーターコアが張り出すシンプルな建物形状とすることで、内部の整形で広い作業エリアを確保するとともに、外気の熱負荷からの影響を低減している。各階全方位に引違いの水平窓を設置することで、自然採光・自然通風を積極的に導入できる計画としている。外壁・屋根・アルミ建具・オーバースライダー等の外皮には断熱性の高い製品を採用することで、熱負荷の影響を低減し、消費エネルギーの削減を図っている。</p> <p>雪に対しては、無落雪を原則とするとともに、敷地内に雪溜スペースを適切に確保することで、周辺への影響を低減する対策を行っている。また、雪底防止笠木の採用、主動線へのロードヒーティングの採用により雪に対する安全性も確保している。</p>	<p>・外壁・屋根・アルミサッシを断熱性の高い仕様とすることで外皮性能を高めている。</p> <p>・全方位に対して水平窓に設けることで自然採光を積極的に取り入れている。</p> <p>・照明器具にLED光源の器具を全面的に採用している。</p> <p>・事務スペースでは窓側と廊下側で点滅を分けて、昼光利用が可能な時間帯は窓側の照明を消すことができるようにしている。</p>
B 省資源等	D 雪処理
<p>・基礎コンクリートと捨てコンクリートに廃炉セメントを採用することで省資源化を図っている。</p>	<p>・無落雪を原則としてパラベット高さを高くするなどの対策を行っている。また、雪底防止笠木をパラベットに設けることで降雪時の危険性を低減している。</p> <p>・敷地全体としては除雪を前提とし、車両の通行が多いエリアにはロードヒーティングを敷設している。</p> <p>・集雪を敷地内に確保することで、敷地外へ雪を出さないよう配慮している。</p>
C 緑化	
<p>・札幌市規定の緑化率10%を超える緑化面積を確保している。敷地外周を中心に緑化を施すことで、周辺環境に対しても配慮している。</p> <p>・通行量の多い北側道路に面しては、高さ3M程度の中高木を配置している。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される